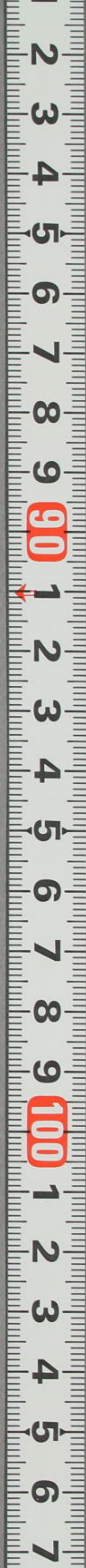




^13
3843
4



門 へ 13
號 3843
卷 4

繪本西遊記初編卷之五

前章之下

均川の住人に劉全といふ者あり其妻李翠蓮といふ者自か
頭にかざせし金の釵を取て門前の僧に親しむと怒りさめぐこ
罵り恥づめられし書りて返しとありて遂に益々死するを劉
全これを見て今や皇世の事のごとく返りて死せむとありし
おろし太宗皇帝陰司にて閻王に此菓を送るべきは「符来」にて
還りて命と捨てしとて此菓を閻王に此菓と献じし者や「符来」
番く大下とてとらむ人の劉全幸ひの事におのひ長安に至り
此菓を持て陰司に赴くべき旨奉聞しければ太宗かざるなく收



繪本西遊記初編卷之五



劉全奉
勅獻瓜
王



むひやうと劉全が頭に一つの瓜果と頂を毒茶とりて死せしめ
 るもされば劉全が一點の魂魄瓜果をかへらば裁き地府森羅殿
 に至り閻王に呈ししるれば閻王大喜にゆるさむとて劉全を
 陰司へ来るを由來とくじくたげし毒の李翠蓮が魂を呼て劉全
 に對面させ生死の簿子圖を傳へ壽命いまだとて鬼使に命じて
 渠二人が魂を陽間に還すとて下級せしるるに鬼使中て曰く李翠
 蓮既に死して自ら其屍と失ひし何處の所つて魂を返すゆき
 閻王の曰く唐王の妹李英が命を縮め李翠蓮が魂を收む
 鬼使かゝるる所の魂と提長安城にありし劉全の魂を其
 屍におくをまより内院にへ玉英皇王を尋ねおしし皇王は
 前の死を流涕し快く徘徊し一人を鬼使をりて推倒し魂を

引けり出し翠蓮が魂をよそへ入る陰司とてとてびまうる
 大皇帝とてうんげありとてとて玉英皇王を閻絶と
 死するぞ杖よくこそ自ら庭に下りし皇太后宮嬪はしるあて
 さめぐんを抱けれは白玉王衛に獲生るひ大皇帝とて大さたお
 どり死押你等何人されば我とい所にいざさむい本あるやゆり
 多とと逃されば大皇帝も甚ぞ驚きさむひとと取て引とら付ま
 何事と云や我の我が兄をわらひ嫂より忠告者にけりはと富
 どし白玉王のいひに我え本見もわく嫂は均初の民李翠
 蓮といふ女我夫の名劉全とて大皇帝の作と夢り閻王の此
 果と献し陰司とて不測の對面をばし夫婦の流とも陽間に之り
 ありし道うて大皇帝とて失ひ誤るるに本もつかへせむと



李王英

翠蓮
王英
交易
魂魄



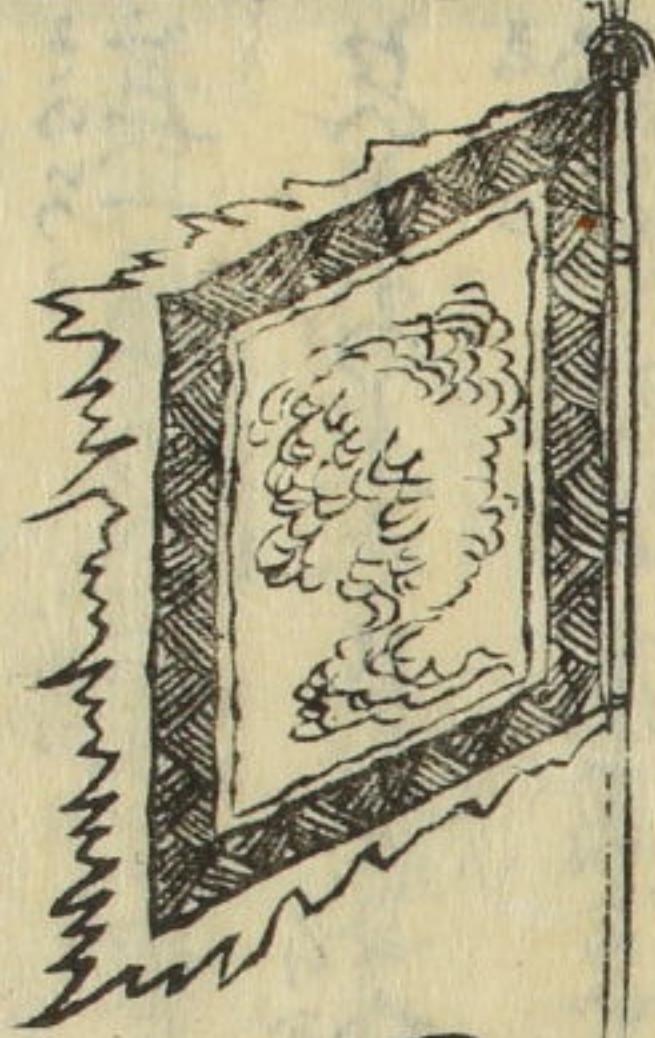
歎く西一箇の官人きりあり陶王の瓜果と献せ劉全といふ
朝門にありいと羨望のこと若宗をさすといふおどろききり
則劉全とあり入る玉英白主に相合とれば皇王劉全とて我ま
何處にかれあまひやとさうよりてさあぐと哭く不た劉全
まて去きにあうれ其声の妻の李翠蓮に似れども其人の愛に
だふかぬとやんとさき雲の上人何とてさあぐとさき唯あきれた
らされ果忙然として言葉は若宗は始終と御後ありて前に真
途とて陶王の吾妹が令てそ危ふとて伝て今今の不測の端
まそそ奉の子細を語りせ遂に皇王張劉全に賜てられはま
婦もろともほふとかさうさき恩と謝しと俱に故々回なり

唐王選僧修大會

觀音顯像化金蟬

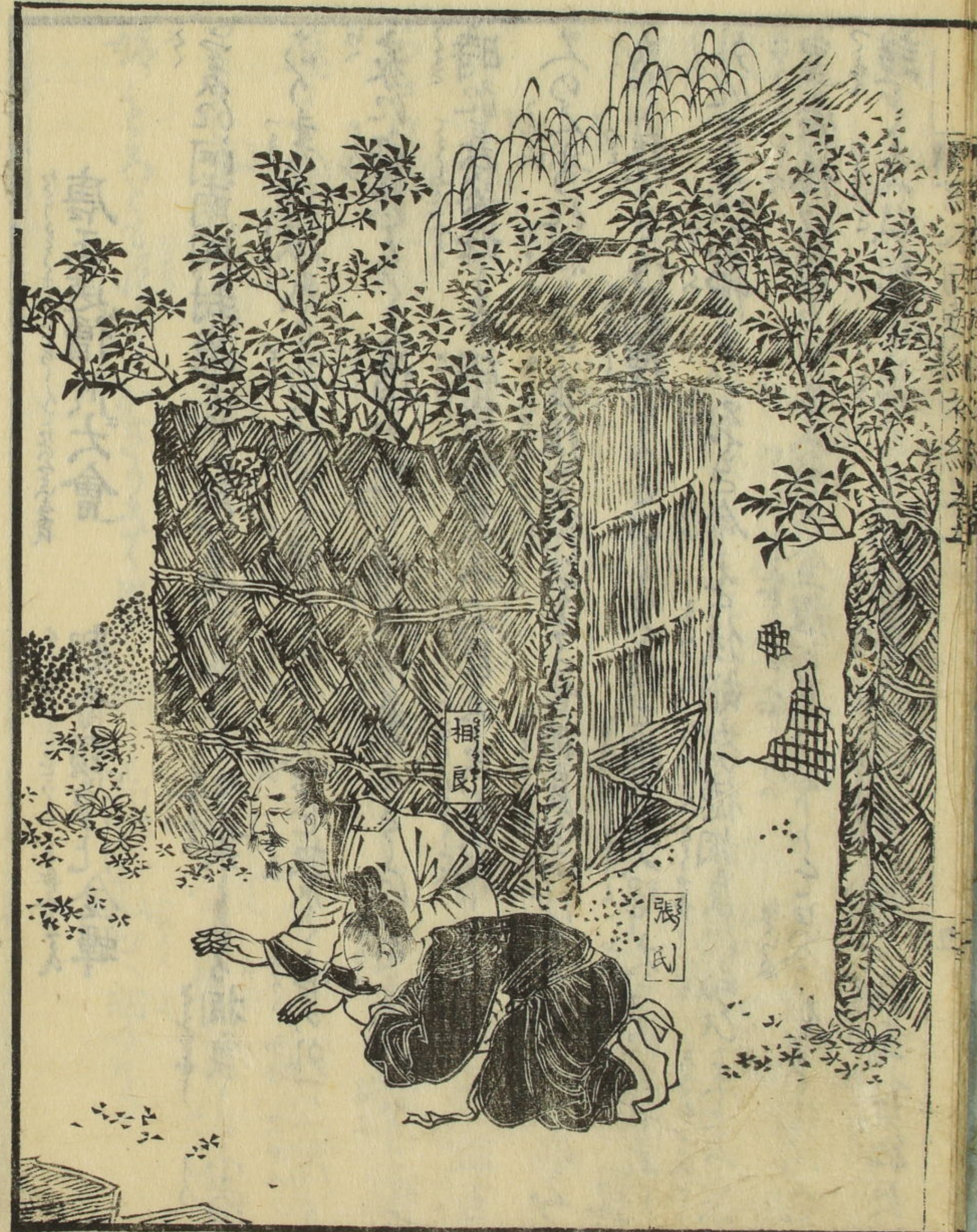
爰に河南開封府と入所よ水と賣く生業とる相良といふ者
あり妻の張氏と共に佛をそとて命と報束と食の外ハ一
家に留度とて僧小施し佛に供養しそに畜るの一二
時に長安城より胡敬徳と入大臣若宗皇帝の令とて
人の人々にねるの金銀と荷ひとて相良があばら
高く積るといふ勅使なりといひり相良夫婦大きに
外にやうび出標とて我を命を候胡敬徳相良に向ひ
皇帝你に借らせし所の金銀と其に令とて只今か
謹ぐも収むべしとてわれが相良再び作天一野入

帝以敬德
賜金相良



敬德

曾公西定已初編卷五



相良

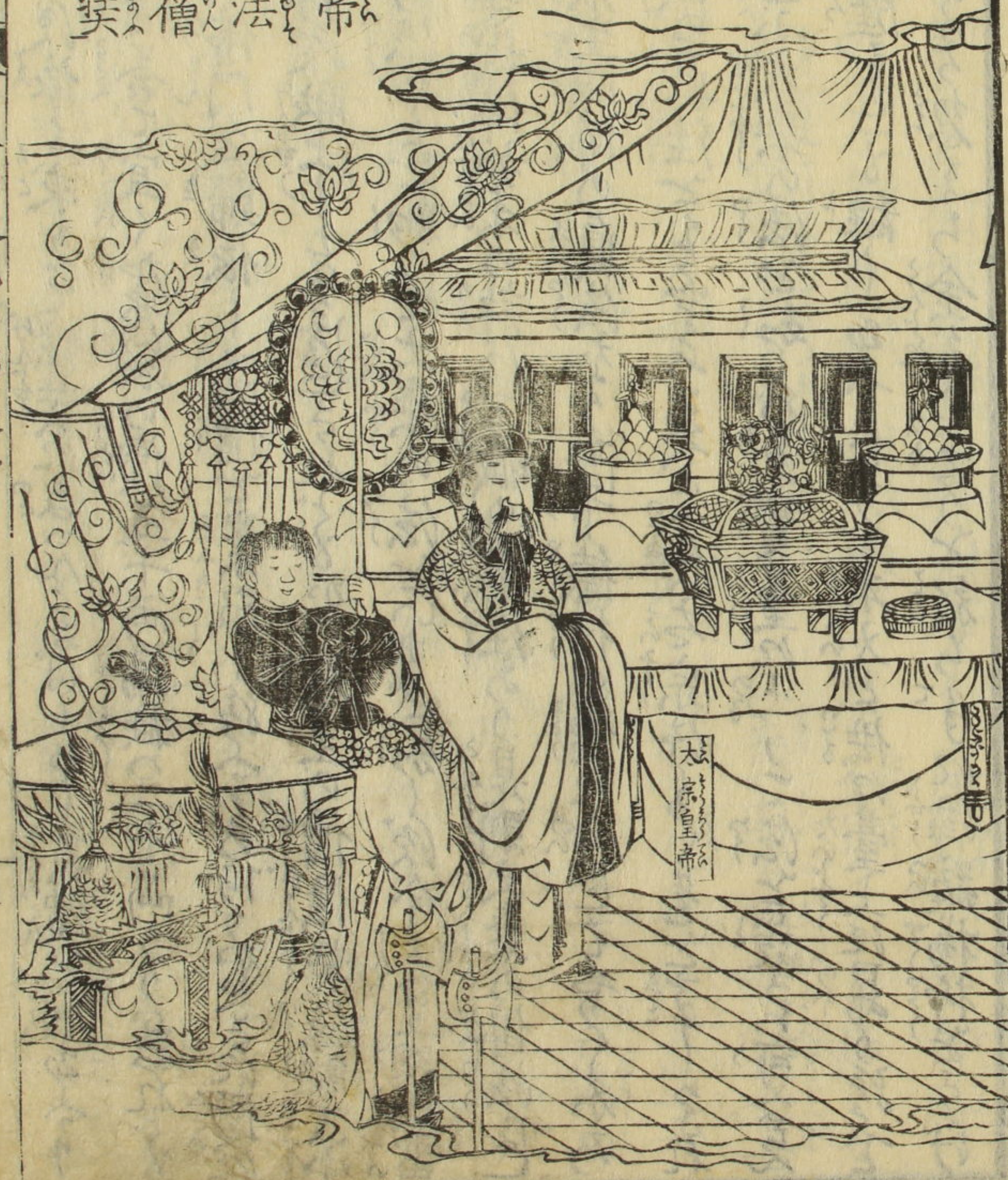
張氏

續文西定已初編卷五

まゝむじりし一姓の貯は何ぞ大唐の天子へ金銀とかきまらざ
是の人のたぐふとくくとりたるに教徳の曰你何ぞ現在世て天子へ
多くの金銀を借するべきに平常僧はたに佛に供養せる財
寶陰司に於て十三庫に充たり王上はに真途に至らむに
其一庫の金銀とからせむに今其負數と合く返して入る者あり
只よりしく是とて大御むぐりありたれど相良は合意せざば萬
歳帝たて陰司とて金銀を借するに證據されなし
吾命とせらるるもいられまき金銀を得るそまやうとて
まごごふをばは是に依りま使とせらるるの起とて大皇帝
の養圃とれば大皇帝即涼がぬに寺院と建ま一僧とて供
養とてと詔ありたれば教徳は其金銀ともく一丈寺と

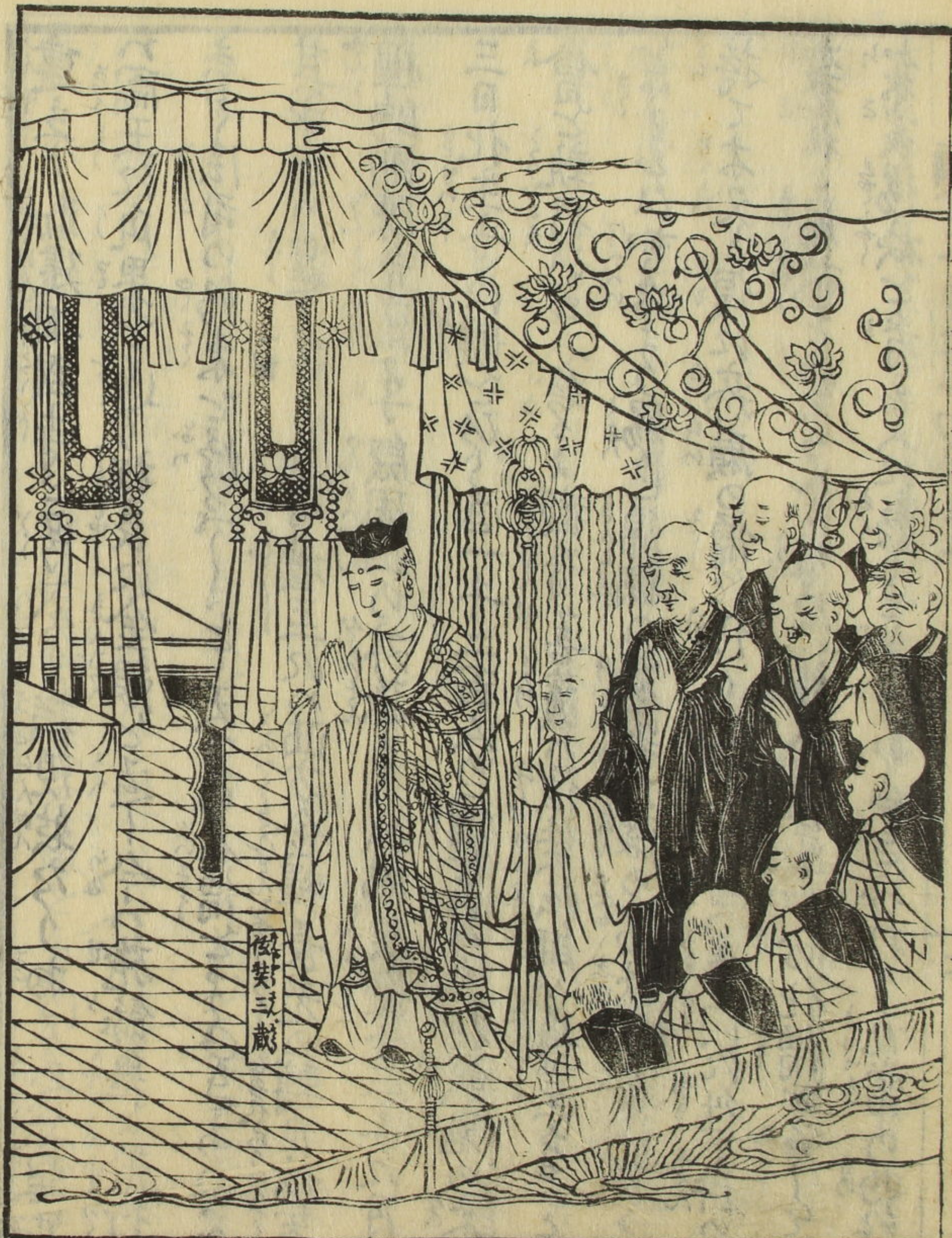
建ま一勅建相國寺に序今も相現然たりおも大皇帝
の圖王の瓜果を送り相良に金銀と返し今に施餘鬼と修行
まゝ陰司のゆゑとせらるるも天下の名僧とせらるるもあつた
其中より選まて壇主の西方金蟬長老の轉世法
禪師則陳光慈が子殷用山の外孫ありけり貞觀十二年九月
三日化生寺に壇とひらき一千二百人の僧とあつた施餘鬼の大
會と執行ひらき觀音菩薩の法法師が通すまらるる
とせらるるも如来より賜り綿綱の袈裟九環の錫杖とてはた
持て木又と俛に疥癩の僧に化し長安の東華門に往て件
加衣袈と錫杖とを賣らんとせらるるも大皇帝の化僧とて
加衣袈錫杖とを賣らんとせらるるも大皇帝の化僧とて
加衣袈錫杖とを賣らんとせらるるも大皇帝の化僧とて

多
皇
修
法
逢
僧
佐
奘



會
不
西
遊
已
乃
歸
來
也

大
唐
皇
帝



經
不
西
遊
已
乃
歸
來
也

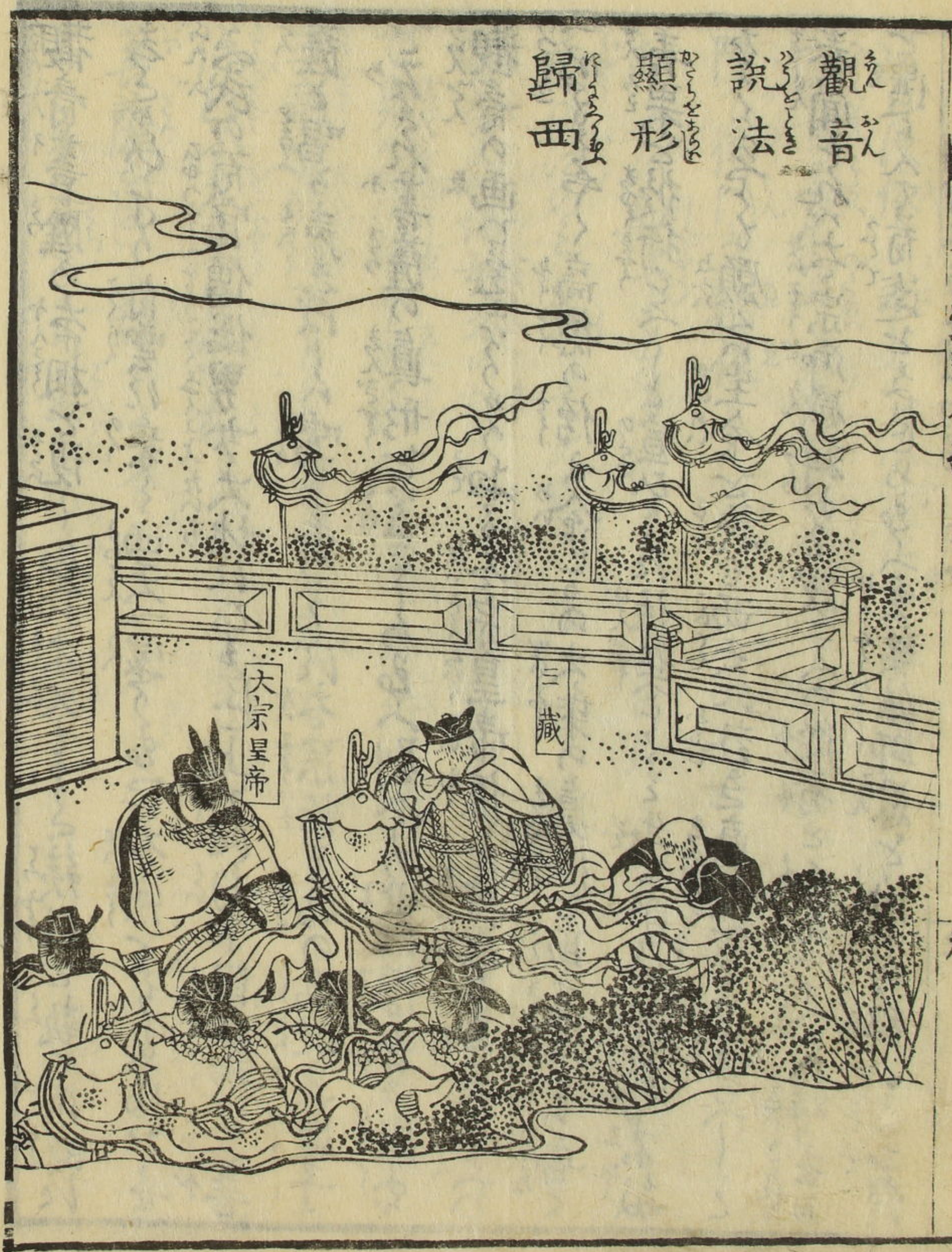
佐
奘
三
藏

つら及依く求むて信獎にふんとおぼしめし其價と同なり
觀音菩薩を宜くか衣鉢の價五千兩錫杖の二千兩なり然れども
陛下佛門を歸依し高僧と宗敬し終つてのけりかたされ價に
あつては献上するも道にされどもかの壇主の僧侶法師法師も
乘の法のこと知りて大乘の法といふと初めは今天皇國大雷
音寺我佛如來の許に三藏の真經あり是則大乘の佛法は
て衆生成佛の真法なり陛下徳行の僧に命じて尋くか乃
三藏の真經とて尋くかと宣はる宗はくく是と尋くされ
你已大乘の法と尋くか多寶臺に上りて法と説く可なり
菩薩とて尋くか辭しむるも本入と供に臺上に昇り終つて
入らるる勿忘らる金蓮の光りと叙らるに淨瓶揚柳と尋くか

觀音菩薩の奉相と現しむる本又も尋くか鉄棍と執て淨鉢に
まごがひもり白雲に乗る西天へ還るも尋くか宗と尋くかはいつせ
る武の百官僧侶男女大地にひまじ上天におく南無觀世音菩
薩と唱る声きばい鳴も尋くか宗忙ぎ時の画院吳道子
と尋くか菩薩の真形と尋くかあも人則今の世に佛の吳道子か
觀音の画いそたり尋くかお尋くか宗皇帝係る奇蹟を見むる尋くか
一時も尋くか高徳の佛も命じりの大乘の真經と取本らる尋くか
善果と修行と尋くかと宣ひるに信獎と尋くか尋くか尋くか負傷不敏
たつら尋くか願ふ生命と尋くか西天に赴き真經と尋くか尋くか
奏聞されば宗帝感料かりて二人の從者と白馬一疋を賜り吉日
と選り入る前途と尋くか尋くか尋くか法師恩と尋くか尋くか都と尋くか尋くか



繪本西遊記初編卷五



繪本西遊記初編卷五

大、宗、皇、帝、も、ろ、く、の、官、人、と、共、に、園、の、外、を、送、り、出、さ、せ、給、ひ、御、
酒、盃、を、賜、り、勅、し、て、富、の、酒、の、僧、家、の、制、を、す、れ、給、ひ、一、杯、の、腹、が、
餓、別、を、り、快、飲、は、し、て、別、を、の、情、を、盡、さ、し、且、三、藏、の、真、徑、を、需、み、
給、ひ、你、を、れ、ば、今、よ、う、三、藏、と、号、す、と、作、ら、れ、ば、玄、奘、法、師、君、恩、の、
深、き、に、為、涙、止、め、が、く、大、宗、皇、帝、に、辞、謝、し、ま、り、衆、人、に、告、れ、
と、告、げ、西、方、に、出、行、り、

陷虎穴金星解厄

雙岫嶺伯欽留僧

三、藏、の、復、に、玄、奘、三、藏、の、行、儀、を、か、き、旅、の、中、を、せ、り、と、も、あ、く、
出、て、白、馬、に、勝、り、從、者、二、人、を、引、具、し、て、數、月、を、経、り、唐、國、の、西、の、
界、河、の、北、に、着、り、は、北、の、福、原、寺、と、り、入、寺、院、に、一、夜、を、宿、り、

去、の、め、の、鷲、の、音、に、亦、驚、き、て、ま、り、馬、に、の、り、て、出、給、ひ、
秋、の、長、き、お、す、れ、ば、鷲、の、鳴、き、と、尚、も、や、く、霜、を、踏、み、月、に、詠、じ、と、
り、る、高、山、に、よ、ら、の、月、を、み、入、に、忽、三、藏、白、馬、に、乘、り、な、り、從、者、二、
人、を、後、に、も、つ、の、坑、に、陥、り、な、り、と、い、ふ、に、せ、ん、と、あ、ま、れ、る、に、
洞、の、奥、に、声、あ、り、て、ま、り、擡、え、て、伴、事、と、い、ふ、る、不、ど、れ、其、か、と、ら、
と、い、く、に、お、そ、し、き、妖、邪、五、六、十、人、出、ま、り、三、人、を、と、り、て、魔、王、の、
前、に、は、れ、行、り、お、そ、し、く、頭、を、よ、く、是、と、さ、る、に、眼、の、電、の、ご、と、く、
了、急、の、雷、の、如、く、た、衣、の、牙、を、と、り、ど、く、想、を、約、の、如、き、爪、を、つ、ら、し、て、
掴、み、吃、ん、と、し、時、に、外、面、より、按、内、に、熊、山、君、特、處、士、ま、れ、り、と、罵、
て、二、箇、の、怪物、入、り、何、事、と、お、ぼ、す、終、り、三、藏、二、人、の、從、者、を、引、
列、て、と、く、く、喰、ひ、東、方、既、に、明、ま、ん、と、さ、る、時、に、つ、く、この、妖怪、何、の、

倭狹陷
魔穴
失從者



太白星



ともなかくかきけしと見え度なりぬ三藏一人地ひもほし今や
 雲の爲に命と失くし人地もかくおにるに忽ち一人の
 老叟天より三藏をよどりて坑の外へ引連れ出せし
 け所へ雙嶽山嶺と号して虎狼のあはまるふたりの坑の中にあま
 魔王寅宿軍と山猫の精あり外よりある特處士といふ野牛の
 精熊山君の熊罷の精あり你が本性元明たるに依りて
 あらば吾の西天大白星ありと云ふとあり一障の風にはれ白鶴
 に乗りて西の方へ飛りて三藏奇異のおもひをば天よ向ひく
 孔ね馬を牽てや山中と半月斗りもさるるがしらおそに前面
 より二足の大虎咆き走り吼るゝ急雷のどく後の方より八穀十丈
 の大蛇はをひらき窟を吹て追来る三藏氣も魂も身にほにほに今や

命とどらうと見ると思儀や虎も大蛇もはらして懼さるる
 ありさあつと谷の蔭へ一糸に逃入りて三藏大きに怪しむかる極
 歎悪蛇の思ふ者いりたり妖怪やと頭をかへして是をそれの
 一人の大漢子よに鋼又を拿腰ふり前とかけ山上よりあやま
 する三藏再拜して活命の恩と謝し貧僧の大唐皇帝の勅とて
 西天に往て佛とおし真徑と求る者ありとやまのいかの漢士も
 孔と返り其のこの山の獵師劉伯欽と名者なりとては山乃
 虎狼其外の獸類我を覚えていかからん思も逃走する長老を
 安んじ我家にまゐりて身を休めよといふに忽ち山間より土風
 吹き一足の斑斕虎跳き出たり伯欽是を見て長老をばて其が
 け虎を刺殺とてをばて鋼又をひらめけて前よりれは

三蔵法師



伯欽勇猛
虎蛇恐怖



伯欽勇猛

大虎吼て尻と握りて花びうろと綱又を以て向戦うはまの斗
 撮合へがじもの大虎力も後ふ伯欽に刺殺る三藏を
 見く大に驚馬を足下の勇壯真に鬼神の正と称歎し伯欽
 に誘われ果が住家にへつる伯欽が老母大に悦び幸ある
 うる明日の伯欽が父の正當忌日に中ある今宵の我らがために
 佛をまつて祈いんとて齊飲の用意をめぐりつとたるれば
 三藏ねんを後に讀経し翌朝や馬に乗てま出まふ伯欽便
 三人の家僮と引かれ後に松く送りまかせ行事未日ふして
 一箇の大山あり其高き奉天といひく山路九折し嶮難なる
 かりなりけ山の半後追よじぬ伯欽三藏の向ひて中なるけ山の
 西界山とて東半邊の唐朝の地西半山の韃靼の地より韃靼

の地の虎狼の我をえて懼る事は故に某の境と裁かじ
 名残はけき波のほども是より別を中ぐと立ぬらんと
 三藏馬より花下扯留て復何の目り相違なきとて夜とろく
 洞を流し別まうひてぞあうとる

心猿歸正 六賊無踪

三藏と伯欽と既に別まると後入の山の麓より我師又まう
 我師又まうとて鳴るる名類にやうたれの三藏おどろき何者
 かのでく我を呼ぶやとて是をまうに伯欽やういけ山の原五行山
 号せし我大唐王西界山と改めまふいふより傳へるけり
 溪の時天よりけ山を降し下れ一箇の猴と壓玉神に傳て饑

悟空
師始願
從隨



會入百身已刀端...



會入百身已刀端...

鉄丸と呑せ渴らる時ハ餅汁と飲せ今に至るは猿死せ候と
 必定の猿長老を尋ねておぼせり久試山を下りて見申
 こそ三藏を導き山下に果しと石の匣の中に一箇の猿を
 頭を出しと延て三藏を尋ねて長老ハ大唐皇帝の勅と
 西天に往く徑を尋ねて人たればや二藏の曰く我乃ち尋
 你是を問て何と云や猿の曰く我ハ五百年前天宮を崩かせし
 齊天大聖と云は者た如來我罪あるを以て所に押入を敢て
 出らばと云はるは向は觀音菩薩の宮にありと徑を求む
 長老の弟子と云はる西天にて守護し功を立たば善果を得べしと
 教へし師ハ憐れを垂て我を尋ねて御供養し西天に赴
 けし三藏の曰く你た善公ありと云はる我いふと云はる你を救ひ

出さんや猿の曰くこの山の山嶺に金字の壓帖あり師ハこれと
 除きまわし我即ち去と云はる爰に旅し三藏伯欽と俱に山
 よりて見ゆれば果しと大石の正面に封皮を貼喃嘛呢叭唵
 の六字と金書たり三藏近く見ゆりて袈裟除き去んじと
 時忽ち香風一陣吹来りかの帖を虚空に吹上西の空に花
 ちれば三藏伯欽再び天を仰げ山を下りて向の山を尋
 向の猿大さしと云はる師ハ去て遠く退きまわし吾れ所と
 かまらば教を尋ねてと云はる三藏伯欽則身をかくして東の方
 下りて時忽ち天地と崩れ斗箒に落り忽然としてかの猿
 三藏の馬前に来りて再尋ねてこれと云はる三藏曰く你名ハ何と
 中と云はる猿の曰く我ハ法名あり孫悟空と云はる三藏の曰くけ名我

會入野遊已刀扁六五



悟空以
棒擊虎
路上

三藏

悟空



們的宗流にゆく合つる侘りかたちをみるに小頭院に似たり或又
 別名を孫行者と名はくへてて遂に師弟の契りとむをひ仰
 欽一別もを告げ西と東に出行ぬを孫行者行李と背後に付
 進みたる言にやとある度間より猛虎一足跳り出三藏は
 死するを行者見て大驚きより孫に師父恐もる事たられ
 とて耳の中より如意棒と引出虎に向へて只一棒に打殺し
 一根の毛を拵く尖刀と皮は虎の皮と刺く身にやとひ如意棒
 と待死針とやうて耳の中へ收めたり三藏は始終を見て大に
 驚き侘いふてうかくのてきこへ常神通りや行者等て
 曰く天地の間に行らぬる拍我に教する事決してあるは乾中
 只今はうひく鉄棒の延とあり上天に達し縮める時耳の内は

収じ則竜宮より西来る如き三藏をばてたのせくありひ
 馬とをやめて進まざるも限りささめ後されの或は井ふ
 川山は宿りや也常して往行ふ冬の物にたりればおとびくも
 いちまうて枯野の中を公不そなるる行らるる勿心まら路の側より
 六人の前刀徑ありられ出るに陰刀と拿て路と遮りて命おと六
 行李及び金銀を我らう中へは出さるる吾らふ斬く捨んと口く
 に罵りなれば三藏はそれ驚き己に馬より降りて行者はそれ拵
 下し師父まらばおそれるも我られと通拂えんとをらりてこと
 とてよう侘等何者なるぞ名のけりか名おととをるに路をきよ
 應下と名をりる其一人の眼着喜一人の耳聴怒一人の鼻嗅愛
 一人の舌嘗思一人の意見戀一人の身奉憂とをたのりたる行者

悟空與賊
戰於廣野



多し^{おほし} 你^{あなた} 等^ら 原^{もと} 末^{まで} 六^む 個^こ の 毛^け 賊^{ぞく} 我^{われ} の 你^{あなた} 等^ら が 王^{おう} 人^{にん} 公^{こう} あり 貯^{たくわ}
 たる 財^{さい} 寶^{ほう} ま 六^む 箇^こ 出^で せ 我^{われ} に よ 六^む 人^{にん} の 賊^{ぞく} 大^{だい} きに 如^{ごと} け 珍^{めづ} 重^{おも}
 の 刀^{かみ} と 擧^あ 孫^{そん} 行^{ぎやう} 者^{しや} と 中^{ちゆう} 小^{せう} 小^{せう} 八^{はち} 方^{ほう} よう たま かけ て 破^{やぶ} り ぬ れ
 行^{ぎやう} 者^{しや} 自^{みづか} 若^わ と 多^{おほ} く 毛^け の 一^{ひと} 根^{こん} も 破^{やぶ} る と あ 六^む 人^{にん} の も の 目^め と 目^め 破^{やぶ}
 る 合^あ せ あ き れ 果^は て だ り たり

繪本西遊記五之巻終

